

見するに、

能令啓達候、仍今般之御出陣御越河一入御辛勞已識察候、然者雖分少候、納豆壹合已進之候、誠以音問迄候諸餘御歸陣之時分、委曲可申述候、恐々謹言、

三月上旬

淨安寺

欽譽花押

内山彌右衛門尉殿御陣所

〔精進魚類物語〕御所此よしを聞めし、大きに驚かせ給ひて、本人なれば先納豆太に告よと仰ありければ、律師が弟子けしやう文といふ物をもつてつげけり、折ふし納豆太藁の中にひるねして有けるが、ね所見ぐるしくや思ひけん、涎垂ながらかばとおき、仰天してぞ對面する、

〔守貞漫稿^六生業〕納豆賣。

大豆ヲ煮テ室ニ一夜シテ賣之、昔ハ冬ノミ、近年夏モ賣巡之、汁ニ煮、或ハ醬油ヲカケテ食之、京坂ニハ自製スルノミ、店賣モ無之歟、蓋寺納豆トハ異也、寺納豆ハ味噌ノ屬也、

飴

飴ハ、アメト云フ、又糖ノ字ヲ用キル、古ハタガネトモ稱シキ、糯米ヲ煮熟シ、麥蘖ノ粉ト冷湯トヲ和シ、醴ノ如クナラシメ、濾過シテ之ヲ煉リタルヲ水飴ト云ヒ、更ニ煉リテ膏ト爲シタルヲ堅飴ト云フ、其煉過シテ硬凝セシモノニ至リテハ僅ニ鑿ヲ以テ穿ツベシ、堅飴ヲ用テ兩人相對シ、手ヲ以テ互ニ掣スルコト數次、漸クニシテ白色ニ變ズ、之ヲ白飴ト云フ、

名稱

〔新撰字鏡〕飴、徐盈反、平、也、阿女、

〔康熙字典〕會、唐韻、會、並徐盈切、

錫、唐韻、錫、並徐盈切、錫、謂之饴、(中略)按重編廣韻云、錫、徐盈切、當、从、易、正韻、从、